

# 便り

社会福祉法人 えのき会  
京都市伏見区桃山町山下44の8  
(075) 6005 0303

## 便の家

### 別れと出逢いの春

桜の木々が健気に、一所懸命に花を咲かそうとする春がやってきました。春は別れの、そして出逢いの季節。便の家にも健気な春と一緒に別れが、そして出逢いがやってきました。

三月で便の家を退所されるご利用者様が最後の通所をされた三月三十日、みんなと一緒にその方を送る会をしました。職員のピアノに合わせて歌うみんな。そしてそのご利用者様は職員と一緒に皆さんのところを回り「今日まで一緒に過ごしてくれてありがとう」と挨拶されているようでした。私たちの気持ちもちろろん、一緒です。

素直で綺麗な涙を流す他のご利用者様。その光景を見て天井を見上げる職員。春は切なく、でも健気です。みんなはその会を「別れ」と呼ばずに「卒業」と呼びました。春は卒業の季節でもあります。

そして、出逢い。四月から新しく便の家に通所されるご利用者様のため、みんなと一緒にその方を迎える会をしました。職員のピアノに合わせて歌うみんな。心から「ようこそ、ようこそ、どうぞよろしく」と。そのご利用者様も、そして迎えるみんなも、その瞳は花を咲かせた桜のように、健気にキラキラと輝いていました。「卒業」されたご利用者様から、私たち職員は多くのことを学びました。そして新たにここに通われるご利用者様から、私たち職員は多くのことを学んでいくことでした。

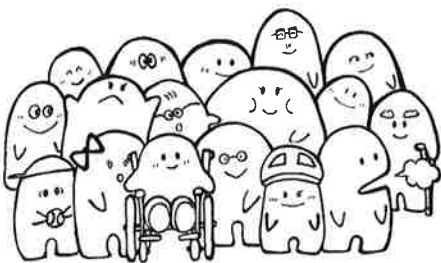
「ありがとう」「よろしく」健気で一所懸命な春に相応しい言葉。私たちはこの繰り返す思いを忘れず、大切にしていきたいと思えます。



## ハックベリー

### お誕生日

ハックベリーでは2月、3月、4月と連続してご利用者様の誕生日がありました。誕生日のお祝いはいつも大盛り上がりです。ハックベリーでは、誕生日の方が好きなケーキを買ってみんなに振舞います。ドイツやベルギーなんかは、誕生日の本人がお菓子を振舞ったりパーティを主催したりするそうなので、ハックベリーの誕生日会も海外式ですね。



「2023年度3月法人研修会 研修要綱」

開催日：2024年3月10日（日）

「権利擁護研修」

時間：10：00～12：30

場所：西町3F 研修センター

司会：北井主任

計49名

10：00～11：00

田中玲美さんご家族様（母）講演

内容：玲美さんのお母様より成育歴を中心にご家族が経験されたこと、感じられたことをお話いただける予定です。また、親亡き後の玲美さんの生活について思う事なども併せてお話いただきます。

お話後質疑応答の時間を設けていただけます。

11：05～12：30

NHK 戦争証言アーカイブ（2015）第6回 障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～視聴（11：05～12：30）

内容：世界と日本の障害者権利擁護の歴史や運動に関する当事者のインタビューを視聴。

※田中玲美さんのお母様の講演を優先しますので、インタビュー視聴の時間は状況によって変更する可能性があります。

田中玲美さんご家族様（母）講演

○普段じっくりご家族の話聞く機会がなくとも良い時間だった。成育歴を聞いて、こんな悩みがあって選択をして今の玲美さんがおられ「障害のある子ども」と生活する苦労や逆にほっこりするお話も聞けてよかった。子供の一生を決めた後、本当にこれで良かったのか今でも悩むという言葉が印象的だった。

○悩まれることも多いと思うが、いつも肯定的に考えられ、前向きに決断し行動されるところが凄いなと思った。私も障害がある娘の母だが「うちの子はここが弱いから、出来ないから」と説明してしまいが、田中さんは玲美さんが持っている力を大切にされ、玲美さんの力は凄いと話されたことがとても素敵だと思った。

○普段送迎等でしかあまりお話する機会がないので、ご利用者様のご家族の思いや、玲美さんが育ってこられた経緯を教えてください。本当に悩んで色々な選択をされながらいま玲美さんが元気に日常生活であること、ご家族様全てではないけれど、ご家族の思い、私たち支援者や行政に思う事など、リアルなお言葉を聞くことができ大変勉強になった。

○玲美さんのこれまでの人生で大変な経験や難しい選択を迫られる場面が沢山あったと思いますが、穏やかな言葉と笑顔もあるなかでのお母様のお話を聴けたのは貴重な時間でした。

NHK戦争証言アーカイブ（2015）第6回 障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～視聴

○学校で歴史的な流れは習ったが、現場ではこんなにも当事者の身体を張った働きがあったんだと驚いた。またこうした働きで環境は変わっていくんだなと、障害を取り巻く環境の変容を知れた。

○障害を持った方々が、自ら訴え大きく行政が動いた時代の背景と、今こうして障害者団体のご家族様が、恥じて家に閉じこめることなく、地域や社会と一緒に生活できるようになった。まだまだ偏見やバリアフリーではない部分もあるけれど、支援者として障害のある方お一人お一人の思いや考えに傾聴しもっともっとバリアフリーな社会にしていきたいと思った。

○お話の中で、子供の頃、近所の友達と遊んでいたのに、小学校の時期が来るとみんなは小学校へ行き、自分は入学させてもらえなかったときに自分が障がいを持っていることを知ったことのお話、家でつなげられた生活を送られた話、バスの乗車の場面や体を貼って権利を主張された場面など、すべてが心に残り、権利どころか人が人として認めてもらえない、ひどい社会と感じました。当事者の方の話の貴重さを感じました。

○バスの乗車拒否に対する座り込みの映像が衝撃的でした。現在はバリアフリーが公共交通機関では当たり前ですが（まだ足りないかも）そうではなかった時代があり、障がいのある人たちが戦ってここまで来たんだなと知りました。